



「多様性と包摂性のある社会の実現を目指して」

ユネスコ協会監事 岡崎博之

岡山ユネスコ協会は1994年3月に設立されましたが、同年の6月にはユネスコ主催の「特別ニーズ教育世界会議」において「サマランカ宣言」というのが採択されています。この宣言の主旨は「インクルーシブ教育 (inclusive education)」を世界に普及しようというものです。インクルーシブ教育とは、「人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的および身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にする」という目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ教育」ということです。



インクルージョンとはもともと包含・包括のことで「宝石の中の異物・内包物」という意味もあります。だいぶ前に紀伊国屋書店で、古生代の昆虫などの化石が入った琥珀（こはく）などを展示販売していたので購入して机に置いていたことがあります。そのころから、インクルージョンというキーワードを障害者だけでなく在留外国人など社会的弱者・マイノリティーとの「多文化共生」にも位置付けて使用してきました。最近では、社会的包摂 (social inclusion) ということで、社会的に弱い立場にあり孤立しがちな人々を排除することなく、地域社会の一員として包み込み支えあうキーワードとしてSDGsにも応用されています。総務省の「地域における多文化共生推進プラン」に「多様性と包摂性の

ある社会の実現による『新たな日常』の構築」が明記されました。

具体的な岡山ユネスコ協会の活動としては、設立当初から毎週土曜日に「外国人なんでも相談・日本語教室」を約20年間、運営してきました。残念ながら担当されていた前事務局長の故小坂田氏が体調を崩された時から取りやめになり国際部会も中断しています。

4月からの新年度には、多文化共生の新たな日常的活動の第一歩として、留学生支援事業を計画しています。具体的には、3つの大学・専門学校で留学生に「社会を知る 地域での生活～多様性と多文化共生の社会～」 「社会を知る日本の法律～安心・安全な留学生活のために～」などの講義をさせていただくことです。特に、留学生の就労支援で在留資格の話を中心にする予定です。

<写真は〇専門学校での講義風景>



「第78回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津」への参加

事務局 井上 紘貴



2022年11月26日土曜日、千葉県木更津市にて開催された「第78回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津」に参加してきました。日本ユネスコ運動全国大会は全国各地のユネスコ協会、ユネスコクラブ等の会員が集い、学びあうイベントで対面での開催は3年振りで、私自身にとっては初めての参加となりました。会場の木更津市は行政を主体とした“オルガニックなまちづくり”が進められており、木更津市の渡辺市長はじめ、民間企業、社会教育の立場の方々からもオルガニックなまちづくりについて発表、意見交換がありました。

オルガニックとは「①有機の、②器官の、臓器の、③本質的な、根本的な」という意味で、有機とは、臓器や細胞などの体の各部分がそれぞれの機能を持ちながら（→自立）つながりあいながらバランスよく連携、補完し合う（→循環・共生）といった意味もあるようです。一般的に野菜や食品、化粧品などでオルガニックという言葉が用いられますが、それだけでない広くて深い意味があることを初めて知りました。

また、俳優の宇梶剛士さんによる講演「明日に向かって生きる」では宇梶さんの幼少時代の経験、母親の宇梶静江さんがアイヌ民族の解放運動家として活動してきたことにも触れられ、ユネスコ活動のキーワードでもある「相互理解」にもつながる内容でした。

他にも地元の木更津市立清見台小学校の児童たちやケニアから来日しているALTの女性による発表もあり、半

日という短い時間でしたが、とても中身の濃い全国大会となりました。

初参加でしたので、初めましての方が多かったですが、私自身ESD活動を10年以上やってきたこともあり、久しぶりに会う方もいて、楽しいひとときでした。

2023年度の全国大会は9月に山梨県富士吉田市での開催が決定しており、そちらも楽しみです。



「ESDカフェ URA2022」が開催されました！

理事 角田 みどり

NPO法人こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）が毎年12月の恒例行事として開催している「ESD Cafe URA 2022～SDGsと私～未来は私たちがつくる～」には、毎年、岡山ユネスコ協会も協賛しているイベントです。今年度は12月18日土曜日に岡山国際交流センターにて開催されました。



このSDGsについて考え、ディスカッションするイベントは、年々評価が高まっており、今年度は岡山県下の中学校、高校23校より137名の申込がありました。開閉会行事と各グループの発表は8階で、後のグループワークは、8FとB1Fの2会場に分かれて実施しました。井上紘貴事務局長と共に、世話人（理事・運営委員）として参加いたしました。また、小竹祐加理事が横断幕を2枚揮毫してくださったほか、池田満之会長、藤木茂彦副会長、青年部の香川生織会員にはアドバイザーとして参加していただきました。



池田会長による開会挨拶の後、2会場に分かれてグループワークとなりました。各グループにはアドバイザーが加わり、中高校生の協議を見守り、その方向性や内容にコメントを適時にアドバイスをしていただきました。

それぞれのグループには、数個のSDGsのゴールが提示され、話し合いによってどのゴールに絞るかをまず決め、意見交換しながら、最終的には各グループでパワーポイントにまとめます。まったく学校の異なる生徒さんたちが、初めて会って話し合い、リーダー役、パソコン役、タイマー役をそれぞれ決めて、協議を進めました。16グループで取り上げられたゴールは様々で、「海の豊かさ」「ジェンダー平等」「社会福祉」「つくる責任つかう責任」「陸の豊かさ」などなど、拡がりがありました。



グループ発表後に急きょ「全体講評」の大役が回ってきましたので、次の3つの点にまとめて話しました。

- 1.SDGsの17のゴールを正しく理解し、それを「自分ごと」として捉えること。
- 2.SDGsのゴールを目指して、家庭生活の中で、学校生活の中で、地域社会で、個人でまず出来ることから「実践する」こと。
- 3.実践したことを、校内へ、地域へ、社会へ、SNS等で「発信する」こと。



この3つに加え、最後には「SDGsネイティブ」について紹介し、「Z世代」の中高校生の皆さんが、将来どう生きるかをお話させていただきました。

世界中が一体となって、2030年に向けて取り組んでいるSDGsは、確実に若い世代に浸透し、残り8年となったゴールに向かって着実に歩みを進めているという確信がもてる時間となりました。

カフェの最後には、閉会挨拶として、インターキッズの秋政孝一会長が参加された中高校生の皆さん方の取組を賞賛されました。

次年度もまた充実したESD cafeを開催したいものだと、インターキッズ役員一同願っています。ご協賛いただきましたユネスコ関係の皆さま方、有り難うございました。心より御礼申し上げます。

「ユネスコ協会 SDGs パスポート事業」

SDGs パスポート担当理事 栗坂 祐子

「ユネスコ協会 SDGs パスポート事業」は、小・中・高校の児童生徒がボランティア活動への参加のきっかけのツールとし、福祉や環境、平和等の地域や世界が抱える課題を知り、自ら解決する行動力を育めるように、一人ひとりの努力を記録し応援する取組です。岡山ユネスコ協会関係では、約30校の小・中学校で7,000名を越える児童・生徒が取り組んでいます。今年度も、コロナ禍の影響で通常の活動が難しい状況でしたが、そのような中でも5名が30ボランを達成、22名が15ボランを達成されました。

今回は、15ボランを達成した矢掛小学校5年生の室 美空さんが、ボランティア活動を通して感じたことや気づいたことについてまとめられたものを紹介します。



私が参加している活動団体では、ごみ拾いやお店を出すといった活動を行っています。ごみ拾いは、実際に海岸に行って現状を確認し、「どういった場所にどのようなごみが落ちているのか」という詳しいことにも着目し、行うことができました。海ごみは日かげや岩のすき間などに落ちていることに気づきました。

道の駅マルシェでお店を出す時には、メンバーと内容を話し合い、本番に向けて練習を重ね、きちんと自分のすることを意識し行動することができたので、うれしかったです。

また、清掃やリサイクル活動もしました。小さなことでも努力することで、SDGsの目標を達成していけるといいなと思いました。たくさんの経験を活動に生かせるよう頑張りたいです。

(矢掛倒立矢掛小学校 5年 室 美空)



「2022年度「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」

副会長 田畑美和子

2023年1月7日(金)～9日(月)の3日間、第24回絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展を実施しました。(後援：岡山市教委)

岡山市内の小・中学校の児童・生徒に向け、夏休み期間中に自分の町の文化や歴史、景観、自然などを見つめた作品を募集しています。今年度は19団体、239作品から77賞を選定し、「おかやま西川原プラザ」のギャラリーで一般公開しました。コロナ禍で従来より少なくはなりましたが、力作ぞろいで見ごたえがある絵画展となりました。来場者は各日50名前後で、新春の穏やかなアート時間をゆったり楽しんでいただけました。作品を見ながら漏れてくる家族の会話が、何よりの成果だという感じもしました。表彰式は、混雑を避け特別賞と優秀賞の計10点のみの表彰となりましたが、会場に入りきらないほどの盛況でした。受賞した児童・生徒さんに一言感想をいただきましたが、この日の情景が新たな思い出のひとつとして、一生懸命描いた対象と共に皆様の心に生き続けることでしょう。

日本ユネスコ協会連盟・会長賞
岡山ユネスコ協会・会長賞
奨励賞(旧三宅正勝賞)

芳泉中学校2年 桑名咲恵「幻想庭園」
伊島小学校4年 永原琉真「備中神楽」
三野小学校2年 山下茉莉子「どはでなうらじゃ」

優秀賞は、小1・末吉花帆「わたしのまち」
 小2・久井杏夏「きびつぐう」
 小3・清水優菜「ブッポーソウが飛んでいるよ」
 小4・松本瑚子「つると岡山城」
 小5・道前志葉子「倉吉川吉井水門」
 小6・佐伯千尋「夕日に輝く備中国分寺」
 中3・上田りさ「青空にそびえ立つ五重塔」
 他に 優良賞 20 作品、佳作 47 作品 の展示を行いました。



写真は、審査風景、公開展示、表彰式、特別3賞その他です。



「3年振りのオフラインイベント@京山地区ESD・SDGsフェスティバル」

青年部 香川生織

2023年1月28日土曜日、岡山市立京山公民館で開催された京山地区ESD・SDGsフェスティバルのイベントの一環として、岡山ユネスコ青年部として、3年ぶりのオフラインでのイベントを実施しました。

今回は、ノートルダム清心女子大学のボランティアサークル・シグマソサエティさんとイベントを企画し、当日は京山中学校出身で岡山朝日高校3年生の大山くんにも手伝っていただきました。今回は京山地区ESDフェスティバルに来た方がちらっとのぞけるカフェのようなスタイルで開催しました。

当日のイベント内容は以下の通りです。

- ①団体の活動紹介資料掲示
- ②日本の世界遺産クイズ25個あててみよう!!
- ③平和に祈りをこめて、折り紙で折り鶴を折ってみよう!!
- ④SDGsカルタ(京山中学校の生徒さんが作成)

日本の世界遺産クイズは、日本にある25個の世界遺産を写真と日本地図と文言のヒントをみながら解いていただく形式にしましたが、小学2年生で8個も知ってる子がいて驚きました。一方で大人が正答率低かったのが残念でした。岡山ユネスコ協会ホームページにもフリー素材として掲載していますので、ぜひ挑戦してみてください!!

<https://okaunesco.wixsite.com/index/okaune-youth>



イベント当日は毎年恒例の小中学生による学習発表がビデオ録画での発表となった影響もあり、例年に比べて来場者数は少なかったですが、それでも20名ほどの家族連れを中心ににお越しいただき、イベントを楽しんでくださいました。

感想としましては、不特定多数のいろんな人の楽しむ気持ちと笑顔を間近で見ることができ、対面のイベントの良さを改めて実感できました。また、大学生の作る資料のクオリティが高く、我々も負けてられないなと思いました。コロナ禍で人と人とのコミュニケーションが分裂し、以前のような活動も難しい状況になりましたが、活動内容は多少違えど進むべきベクトルが一緒の団体とコラボをやるのが今後やってくる「新たな活動スタイル」なのかと思いました。次回開催も企画考案していますので、お楽しみに！！



<総会のご案内>

下記の通り、2023年度総会を開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：5月13日（土）14:00～16:00

場所：岡山県生涯学習センター（岡山市北区伊島町3丁目1番1号）

情報・創作棟 4F 中研修室

※ 2023年度会費の振り込み、もしくは総会当日に受付にてお支払いをお願い致します。

一般会員：¥5,000 団体会員：¥10,000 青年会員（15～35歳）：¥2,000

<編集後記>

先日は、WBCの日本対アメリカ戦において、日本中が感動の渦に巻き込まれました。野球界も活気を取り戻す中、日常生活もマスク着用が個人の判断に任せられるようになり、だんだんとコロナ前の生活に戻りつつありますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。ニュースレターは今回で第62号の発行となりました。会員の皆様方には、ユネスコの活動について理解していただき、今後のご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想をどしどし取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子

